



哺乳類

(1) レッドリスト種（哺乳類）の概要

レッドリスト種に選定した哺乳類は、14種でした。表4-4にカテゴリごとの種数・概要を示します。

レッドリスト種に選定した種は、山地帯から高山帯にかけての比較的標高の高い地域に生息する種が多い傾向がみられました。

表4-4 哺乳類レッドリスト種の概要

レッドリストカテゴリー	種数	選定した種の概要
絶滅（EX）	1	・明治時代に絶滅したとされているニホンオオカミを選定しました。
野生絶滅（EW）	0	・野生絶滅に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	0	・絶滅危惧Ⅰ類に該当する種は選定されませんでした。
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	2	・亜高山帯から高山帯にかけて生息するアズミトガリネズミ、山地帯の比較的標高の高い森林に生息するミズラモグラを選定しました。
準絶滅危惧（NT）	8	・山地帯から高山帯に生息するトガリネズミ、オコジョ、溪流に生息するカワネズミ等を選定しました。
情報不足（DD）	3	・山地帯以上の森林に生息するシナノホオヒゲコウモリ等のコウモリ類を選定しました。

(2) 危惧される減少要因

レッドリスト種の絶滅・減少要因としては、森林の伐採や治山工事等による森林・河川等の小型哺乳類の生息環境の減少や悪化、さらにその分断があげられます。特に、樹洞がある大径木の伐採は減少要因の一つです。

情報不足としてあげたコウモリ類は、夜行性で、観察が難しいこともあり、哺乳類の中でも生息情報が不足しています。そのため実際には絶滅の危険性が高い可能性があります。

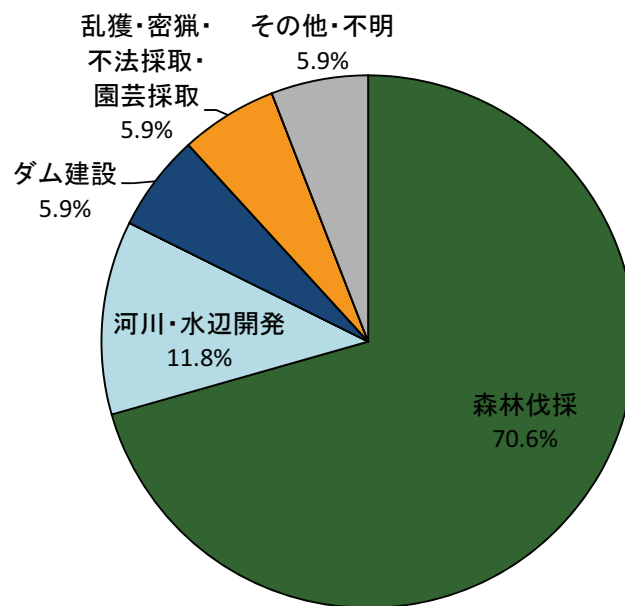


図 4-2 哺乳類レッドリスト種の減少要因の割合

ニホンオオカミ (ネコ目 イヌ科)

Canis lupus hodophilax

安曇野市：絶滅	長野県：絶滅	EX
EX	環境省：絶滅	EX



●特徴：全長 150～170cm。ユーラシア大陸や北アメリカ大陸に生息するオオカミに比べて脚や耳が短いのが特徴です。シカなどを群れで襲って食べたり、ノウサギやネズミ類を食べていたと考えられます。

●生息環境：森林に生息していたと考えられます。

●国内の分布：本州から九州に分布していました。1905年に奈良県で捕獲された個体を最後に絶滅したと考えられます。

●市内の分布：近年の生息記録はありませんが、長野県内の古文書には、ニホンオオカミの記録が複数あり、天龍村神原の神社には頭骨が奉納されていることから、市内にも生息していたと考えられます。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。また、家畜の害獣として駆除されたり、伝染病がはやったことなどにより、個体数が減少した結果、絶滅したと考えられます。

参考文献 No. 4

生息環境



アズミトガリネズミ (モグラ目 トガリネズミ科)

Sorex hosonoi

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
VU	環境省：準絶滅危惧	NT



●特徴：全長 9～12cm。背中が暗褐色で、お腹は背中より淡くみえます。詳しい生態はわかっていません。

●生息環境：亜高山帯から高山帯の森林や草原に生息します。

●国内の分布：中部山岳地帯（北アルプス、中央アルプス、南アルプス）及び奥秩父、志賀山などに分布します。

●市内の分布：北アルプスの亜高山帯から高山帯に生息しています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 18, 52

生息環境



ミズラモグラ (モグラ目 モグラ科)

Euroscaptor mizura

安曇野市：絶滅危惧Ⅱ類	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
VU	環境省：準絶滅危惧	NT



●特徴：全長 10～13cm。体の色は灰褐色または黒色です。主に地中で生活し、ミミズ類や昆虫類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から高山帯の森林に生息します。

●国内の分布：本州（青森県から広島県）に分布します。

●市内の分布：北アルプスの山地帯上部から亜高山帯の森林に生息しています。個体数は少ないと考えられます。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 16, 23

生息環境



ホンシュウトガリネズミ (モグラ目トガリネズミ科)

Sorex shinto sinto

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —



●特徴：全長8～13cm。夏は背中が暗い赤褐色でお腹は灰色または薄茶色になり、冬は全体に暗色になります。地上で昆虫類やクモ類、ムカデ類を食べます。

●生息環境：山地帯から高山帯に生息します。

●国内の分布：本州、四国、佐渡島に分布します。

●市内の分布：北アルプスの山地帯上部から高山帯の森林や草原に生息しています。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。



参考文献 No. 4, 15, 16, 23, 36, 52

カワネズミ (モグラ目 トガリネズミ科)

Chimarrogale himalayica

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —



●特徴：全長19～26cm。夏は背中が黒褐色で、冬は灰色が強く、お尻あたりの毛は銀色にみえます。水中に潜って、水生昆虫や魚類などを食べます。

●生息環境：山麓部から山地帯の溪流に生息し、岩や倒木の多い場所を好みます。

●国内の分布：本州、九州に分布します。

●市内の分布：中房川、烏川、黒沢川などの河川上流域に生息しています。

●減少要因：ダム建設などの河川開発による生息地の悪化や減少が考えられます。



参考文献 No. 4, 15, 16, 18, 19, 36, 52, 69

モモジロコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Myotis macrodactylus

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —



●特徴：全長8～11cm。全身は黒褐色です。夜行性で、飛びながら昆虫類を食べます。日中は群れでねぐらをとります。

●生息環境：河川に近い場所に生息し、河川に近い洞穴や橋の裏側をねぐらにします。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：市内の山麓部から亜高山帯に生息しています。松本市梓川の用水の頭首工にねぐらがあることから、安曇野市内にもねぐらがあると考えられます。

●減少要因：河川開発などによるねぐら（洞穴）の減少が考えられます。



参考文献 No. 63

ニホンウサギコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Plecotus auritus sacrimontis



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —

●特徴：全長 8～11cm。体は薄い褐色あるいは灰褐色です。耳は大きいです。夜行性で、飛びながら昆虫類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から亜高山帯に生息し、木の皮の裏側や樹洞、家屋などをねぐらにします。

●国内の分布：北海道、本州（中国地方を除く）、四国に分布します。

●市内の分布：穂高、三郷、堀金など、市内の山麓部から亜高山帯に生息しています。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 16

ヤマコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Nyctalus aviator



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：絶滅危惧Ⅱ類	VU
NT		環境省：絶滅危惧Ⅱ類

●特徴：全長 11～13cm。体は濃い茶褐色で、光沢があります。夜行性で、飛びながら昆虫類を食べます。

●生息環境：山麓部・平野部から山地帯に生息し、樹洞をねぐらにします。

●国内の分布：北海道、本州中部以北、対馬、壱岐島、福江島、南西諸島などに分布します。

●市内の分布：市内の山麓部から山地帯に生息し、時には山麓部・平野部の市街地上空で観察されます。明科では、100 頭以上の群れが観察されています。

●減少要因：森林伐採、特に樹洞などがある大径木の伐採による生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 16, 18, 52

ニホンモモンガ (ネズミ目 リス科)

Pteromys momonga



生息環境



安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省： —

●特徴：全長 24～34cm。背中は夏が茶褐色、冬は灰褐色です。目は大きく、前足と後ろ足との間に飛膜があります。夜行性で、植物を食べます。主に樹上で生活し、木と木の間を移動する時は飛膜を広げて滑空します。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：山地帯から亜高山帯の森林に生息し、樹洞を巣やねぐらにします。

●国内の分布：本州から九州に分布します。

●市内の分布：三郷や堀金、明科をはじめとした、山地帯から亜高山帯の森林に生息しています。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No. 4, 15, 16, 52, 69

ヤマネ (ネズミ目 ヤマネ科)

Glirulus japonicus

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省：—



生息環境



●特徴：全長 11～14cm。背中は淡い褐色で、黒褐色の太い線があり、目の周りに黒褐色のふちどりがあります。夜行性で、昆虫類や植物の実などを食べます。冬は冬眠します。【国指定天然記念物】

●生息環境：山地帯から亜高山帯の森林に生息し、樹洞を巣やねぐらにします。

●国内の分布：本州から九州、隠岐島に分布します。

●市内の分布：三郷をはじめとした、市内の山地帯から亜高山帯に生息しています。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.	4, 15, 16, 18, 36, 52, 63
----------	---------------------------

オコジヨ (ネコ目 イタチ科)

Mustela erminea

安曇野市：準絶滅危惧	長野県：準絶滅危惧	NT
NT		環境省：準絶滅危惧



生息環境



●特徴：全長は、雄が約 24cm、雌が約 21cm。夏は背中が濃い褐色でお腹は白く、冬は全身が白色になります。小型の哺乳類や鳥類、昆虫類を食べます。【長野県指定天然記念物】

●生息環境：山地帯の上部から高山帯に生息し、高山帯では岩の多い場所を好みます。

●国内の分布：北海道、本州中部以北に分布します。

●市内の分布：北アルプスの亜高山帯から高山帯に生息しています。冬には山地帯まで降りてきます。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.	4, 15, 16, 36, 143, 144
----------	-------------------------

シナノホオヒゲコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Myotis ikonnikovi hosoi

安曇野市：情報不足	長野県：絶滅危惧 IB 類	EN
DD		環境省：—



生息環境



●特徴：全長 7～9cm。全身は黒褐色です。夜行性で、飛翔しながら昆虫類を食べます。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の森林に生息し、木の皮の裏側や樹洞をねぐらにします。

●国内の分布：本州中部以北に分布します。

●市内の分布：北アルプスの山地帯から亜高山帯に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.	63
----------	----

ニホンコテングコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Murina silvatica

安曇野市：情報不足

長野県：情報不足

DD

DD

環境省： —

—



生息環境



●特徴：全長 7～9cm。体は茶褐色や黄土色です。鼻の穴が管のような形をして突き出しています。夜行性で、飛びながら昆虫類を食べます。

●生息環境：山地帯から亜高山帯の森林に生息し、樹洞や葉の間をめぐらにします。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：市内の山地帯から亜高山帯に生息していると考えられます。北アルプスの高山帯にある山小屋でも確認されています。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

4

ニホンテングコウモリ (コウモリ目 ヒナコウモリ科)

Murina hilgendorfi

安曇野市：情報不足

長野県：準絶滅危惧

NT

DD

環境省： —

—



生息環境



●特徴：全長 11～12cm。体は灰褐色です。鼻の穴が管のような形をして突き出しています。夜行性で、飛びながら昆虫類を食べます。

●生息環境：山地帯の森林に生息し、樹洞をめぐらにします。

●国内の分布：北海道から九州に分布します。

●市内の分布：市内で捕獲記録があることから、山地帯に生息していると考えられます。

●減少要因：森林伐採などによる生息地の悪化や減少が考えられます。

参考文献 No.

52, 63